

※「ななせ (七星)」とは、北の空に輝く「北斗七星」を意味し、北極星のような不動の真理を求め、さらに広く世人の道しるべとなるようとする本研究科・医学部の理念が象徴されています。



ご挨拶



オープンキャンパス2026実行委員のメンバー



新たな時代の医療人育成に向けて

医学部長
石井 直人

近年、AI技術は目覚ましい進歩を遂げ、皆様のお子様が社会で活躍する頃には、現在とは大きく異なる医療が実現していることでしょう。一方、100年を超える歴史を有する東北大学医学部も大きな変革の時代を迎えています。国際卓越研究大学として世界トップレベルの研究大学を目指し、海外で活躍する研究者の招聘やAI研究を専門とする教授の着任など、新たな教育・研究体制の構築を進めてい

ます。これからの医療は、医学だけではなく、多様な分野の研究者が互いに協力しながら創り上げていくものになるはずです。このような環境で医学を学ぶ学生が、新たな時代の医療を切り開く医療人・医学研究者として大きく成長されることを心から期待しています。保護者の皆様には、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Essay 少子化に思うこと

私が生まれた1960年代の秋田県では、毎年2万人を超える子どもたちが誕生していました。しかし昨年の出生数は3,076人となり、この60年で7分の1にまで減少しました。日本全体でも出生数は60年で3分の1になっています(下グラフ)。いま医

学部で学ぶ学生たちは、かつてないほど少ない世代の一員です。人口減少は地域社会だけでなく、医療の姿も大きく変えようとしています。だからこそ、これからの医師には病気を治すだけでなく、人々の暮らしに寄り添い、地域の未来を支える存在になってほしいと思います。日本の未来には課題がありますが、その未来をより良いものに変えていく力もまた、若い世代の中に育っていると感じています。



医学部学生後援会にお力添えをお願いいたします

医学部学生後援会会長
菅原 明

東北大学は国際卓越研究大学第一号として、研究・人材育成の充実へと改革が進んでおります。医学部学生後援会は2008年に設置された医学部医学科・保健学科の学生の保護者の会です。主な事業内容としては、入学者懇談会などを実施して、会員、学生および教職員の情報共有の場を企画することや、白衣式・ウェアセレモニーなどへの支援、さらには東医体の学生運営に対する支援なども行っております。

また、現在お手元に届いておりますナナセレーターは本会の会報であり、学生が参加するさまざまな行事の紹介、学生の研究内容・研究発表の紹介や、学食メニューの紹介などを通して、保護者の皆様が生徒たちの日々の生活を理解できるように、誌面に工夫を凝らしております。本会の運営に当たっては、保護者の皆様のご理解・お力添えが大変重要でございますので、今後とも何卒よろしく願いいたします。

Essay 星陵キャンパス内、掬水の池について



東北大学医学部構内の保健学科棟の前に掬水の池があります。周辺には桜の木も多く、四季折々さまざまな姿を見せてくれます。特に、長陵同窓会150周年記念庭園が開園してからは、庭園と一体化して訪れやすくなりました。なお、池の水は四ツ谷用水から引き込んでいることで、水が澄んでいるのも頷けます。





①、④～⑩オープンキャンパス2026より ②③医学部分科会 コーヒーブレイクより ⑫⑬入学者懇談会より



「世界のかなめ」となる
学生たち

医学部医学科長
高瀬 圭

保護者の皆様、日頃より教育・研究活動への深いご理解を通じて、学生たちを温かく見守ってくださり、誠にありがとうございます。「われらこそ 世界のかなめ」と学生歌にあるように、国際卓越研究大学である本学の学生は世界に羽ばたき、活躍していく存在です。来年度からはゲートウェイカレッジの開設により国際共修がさらに推進されます。グローバルな舞台で活躍するには、本学で学ん

だ専門知識や多角的な視点と柔軟な思考力を活かすことはもちろんですが、身近な人や地域、母校、それぞれの母国を大切に思う心が世界と向き合う自信となることでしょう。
東北大学で学んでよかったと感じていただけるように、我々も教育研究環境の継続的な改善を続けたいと存じます。今後とも、皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



保健学科の学生の進路選択

医学部保健学科長
宮下 光令

学生後援会の皆様には日頃から数々のご支援をいただき、感謝申し上げます。2026年度の保健学科は3専攻147名の新入生を迎えスタートしました。全ての学生を一人前の医療職者・社会人として卒業させるべく、教職員一同努力してまいります。保健学科の学生の進路は医療機関や一般企業、公務員、進学など多岐にわたります。最近、看護学専攻の卒後6年目の卒業生にアンケートをする機会が

ありましたが「どのような進路であっても学生の選択を応援して欲しい」という声を多くいただきました。保護者はそれぞれの人生経験の豊富さからアドバイスしたくなるものです。しかし、学生はそれぞれ自分の夢や目標を持ち、社会に踏み出そうとしています。ぜひとも学生の選択を尊重し、応援していただければと思います。

大学行事・カリキュラム（2026年度後期）

9月	16日	放射線技術科学専攻ウェアセレモニー（保3年）
	18日	検査技術科学専攻ウェアセレモニー（保3年）  
10月	23～25日	大学祭 ※川内キャンパス
	28・29日	卒業試験（筆記）本試験（医6年）
11月	未定	保健学科卒業研究発表会（保4年）
12月	3日	東北大学・東北医科薬科大学合同慰霊祭・遺骨返還式（医2年）
	7日	臨床修練説明会・キャリアパス懇談会（医4年）
	17・18日	基礎医学修練発表会（医3年）  
1月	22日	マッチング説明会（医5年） 長陵協議会加盟病院説明会
2月	1日	白衣式（医新5年）  
	12日	退職教授最終講義
3月	25日	学位記授与式・学位記伝達式  

※日程および実施有無については変更になる場合があります。

助成行事のご報告

医学部学生後援会が助成しました

2026年8月までに東北大学医学部学生後援会が助成した行事をご紹介します。

4/3

東北大学医学部入学者懇談会

医学部副学部長

本間 経康

東北大学入学式の当日午後、星陵キャンパスにて医学部入学者懇談会を行いました。今年は過去最多の524名もの方々にご出席いただきました。

全体会では、石井直人医学部長、亀井尚病院長、菅原明学生後援会会長の挨拶と、医学部および学生後援会の役員を紹介しました。その後は医学科ならびに保健学科に分かれての説明会に続き、懇談と構内の見学がありました。

医学科では、高瀬圭医学科長の「学科紹介」と石井正教授の「キャリアパス説明」の後、6年生の島田莉名さんが、厳しくも充実した6年間のカリキュラム、部活動や研究活動の両立方法など、入学者への歓迎の意を発表いただきました。

保健学科では看護学、放射線技術科学、検査技術科学の各専攻に分かれ、それぞれ尾崎章子教授、金田朋洋教授、藤井博司史教授から概要と進路状況の説明がありました。また、学生の

佐々木穂香さん、小松未旺さん、山口明日香さん、富宅渚さん、佐藤真希さんが、授業や部活動などの学生生活について各専攻の特色やアドバイスなどを含めて分かりやすく発表いただきました。

保護者の皆様にも施設見学や教員との懇談なども通して、医学部をより深く知る機会にさせていただきました。

おわりに、学生後援会より懇談会会場のコーヒーやお茶菓子のご提供をいただき、誠にありがとうございました。



医学科生発表



石井直人医学部長挨拶



保健学科看護学専攻会場



構内散策の様子



懇談の様子

2026

3月

4月

3/25

4/3

5月

4/23

3/25

保健学科謝恩会

医学部保健学科第19期生謝恩会幹事
医学部保健学科 検査技術科学専攻
卒業生

堀口 颯太

石井直人医学部長と宮下光令保健学科長に温かいご祝辞と乾杯のご発声をいただき、華やかに開宴いたしました。会場には、日頃の講義や実習、卒業研究でご指導くださった先生方をはじめ、臨地実習でお世話になった病院・施設の皆様が大量駆けつけてくださいました。懐かしい思い出を語り合いながら、4年間の深い感謝の思いを直接お伝えする貴重なひとときとなりました。私たちの大学生活は社会が大きく変化する中でのスタートでした。当初は戸惑うこともありましたが、皆様の熱心なサポートのおかげで非常に充実した4年間で過ごすことができました。皆様に改めて感謝申し上げます。講義や実習を通して学んだ知識、経験は私達にとって一生の財産です。今後は新たな環境で壁にぶつかることもあるかと思いますが、東北大学で学んだことを糧に、精一杯精進してまいります。



看護学専攻



検査技術科学専攻



放射線技術科学専攻

5/30

医学部分科会

医学部医学科長

高瀬 圭

2026年5月30日、爽やかな晴天の下に川内萩ホールで実施された全体会に引き続き、星陵キャンパスで行われた医学部分科会には、103名の方々にご参加いただきました。

医学部役職員紹介と教員からの卒業生の進学・就職状況説明、学生後援会長ご挨拶に続いて、医学科および保健学科卒の大学院生による学部学生時代の紹介が行われました。その後、図書館の医学分館、クリニカル・スキルスラボの施設紹介、東北メディカル・メガバンク機構、医学科講義棟や保健学科実習室を含むキャンパス内散策にて、本学の研究・教育の環境をご覧いただきました。学生、教員とのコーヒブレイクでは、医学部生活や研究、課外活動への熱心なご質問、保護者から見た学生の様子についての貴重なご意見をいただき、大変参考になりました。

ご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。



学生、卒業生とのコーヒブレイクの様子



学生も施設見学ツアーに協力



クリニカル・スキルスラボ見学と体験

4/23

医学部保健学科看護学専攻ウェアセレモニー

医学系研究科 老年・在宅看護学分野 准教授

柳 沼 恵

2026年4月23日に看護学専攻のウェアセレモニーを開催しました。本校のウェアセレモニーは、基礎看護学実習を修了した学生が、より専門性の高い領域別実習に臨むにあたり開催されるものです。基礎実習において患者さんと初めて向き合い、看護の実際に触れた経験を踏まえ、改めて看護職としての責任と姿勢を自覚する重要な節目の行事です。

当日は、石井直人医学部長、宮下光令保健学科長、佐々木百合花看護部長、菅原明医学部学生後援会会長、尾崎章子看護学専攻主任からご挨拶を賜り、これから領域別実習に臨む学生たちへ、看護職に求められる姿勢や社会的役割についてのご教示と温かい励ましの言葉をいただきました。

また、学生代表の佐々木優風さんに、医学部のロゴマークである北斗七星が刻印された記念バッジが授与されました。今年度のバッジの色は「ブラックオニキス」で、科学の本能を覚醒させ、持ち主の意志や信念を守るという由来があります。佐々木さんの決意表明では、今までの実習での気づきを踏まえた領

域別実習での目標と看護に向き合うことへの強い意志と責任感が示されました。本セレモニーは、これまでの学びの積み重ねを確かめるとともに、さらなる成長と実践への決意を、参加者一同で共有する意義深い機会となりました。

最後に、日頃より学生を温かく支えてくださっている保護者の皆様、また、学生後援会からの厚いご支援に心より御礼申し上げます。今後も、学生たちの歩みを共に見守り、応援いただければ幸いです。



記念バッジ



ウェアセレモニーの様子



看護学専攻3年生 集合写真



記念バッジを授与される佐々木 優風さん



決意表明

決意表明
全文は
こちら

6月

5/30

7月

8月

7/
29・30

7/29・30

東北大学医学部 オープンキャンパス2026

医学部オープンキャンパス推進委員会委員長

医学系研究科 医用画像工学分野 教授

本間 経康

今年のオープンキャンパスの医学部への来場者は2日間の合計で4,185名でした。医学科、保健学科とも学生が主体となって構内案内ツアーや体験プログラム、模擬講義、学生相談などの企画がありました。

また、特別企画としてエコチル調査宮城ユニットセンター、東北大学病院、東北大学加齢医学研究所、図書館医学分館、東北メディカル・メガバンク機構の展示・案内ツアーも催され、大変盛況でした。とくに、新企画の組織観察・病理診断体験は、見学者が絶えないほどの人気でした。模擬講義も熱心に聴講していただき、医学への関心と

意欲が伝わってきました。

ご参加いただいた皆様には、本学の魅力を存分に体験いただき、また進学希望者にとっては本格的に目指してもらうきっかけになったと思います。来年も沢山の方にご来校いただければ幸いです。



オリジナルTシャツ



キャンパスツアー受付



超音波検査体験



外科医スキル体験



組織観察・病理診断体験



学生相談

→P.7 オープンキャンパス実行委員のコメントを掲載

医学部 NEWS & TOPICS

医学科1年次研究室取材訪問

新入生が5月から6月に研究室を訪問し、研究テーマなどを取材します。

眼科学分野訪問

医学部医学科1年

宮倉 大典



研究室取材訪問では眼科学分野の研究室を訪れました。緑内障研究者を志す私にとっては日頃から通っている馴染み深い研究室ですが、当日は普段あまりお話しする機会のない院生の先生方が、スライドを用いて研究内容などを発表してください大変新鮮でした。質疑応答が大いに盛り上がった結果、予定時間内の実験室見学は叶いませんでしたが、後日グループ全員で改めてお伺いし、私自身も入ったことがなかった動物実験室も含めてさまざまな部屋を見させていただきました。



発達環境医学分野訪問

医学部医学科1年

堀田 和伽



私たちは、発達環境医学分野の研究室を取材しました。同研究室では、エコチル調査等を通じ、胎児—小児期の環境因子が子どもの健康に及ぼす影響を研究しています。「コホート調査では、要因と結果の相関が明らかになる。その後に具体的なメカニズムを解明することで医学の発展につながる可能性がある」と伺い、強く印象に残りました。コホート調査の結果に加え、メカニズムの解明が進むことで、疾患の予防や治療につながることを深く実感しました。



東北大学ビジネスアイデアコンテスト2025

審査員特別賞受賞

Skimpathy (スキンプシー) 代表 医学部医学科4年

辻田 萌子

Skimpathyは全ての人がありのままの素肌(skin)でファッションを楽しみ、共感(empa-thy)の輪を広げようという想いを込めて創りました。東北大学ビジネスアイデアコンテストの存在を知ったのは応募期限4日前でした。ファイナリストに選ばれてから本番までの準備期間は1カ月でしたが、1年間温めてきたアイデアを形にする第一歩と捉え、自分にできる最大限のプレゼンをしました。

その結果、審査員特別賞をいただくことができ、見に来てくれた両親と喜びを分かち合うことができました。また、多くの方から温かい共感と応援の言葉をたくさんいただくことができて、

とてもありがたかったです。医師になることが前提のアイデアなので、現在は医師になるための勉強をしながら、審査員の方にメンタリングしてもらい、実用化に向けて準備を進めています。これからも夢を叶えるまで何度でも挑戦し続け、挑戦できることに感謝の気持ちをいつまでも忘れない人でありたいです。

最後になりますが、今日の私があるのは、ひとえにどんな時も支えてきてくれた家族のおかげです。家族と私の人生を変えてくれた東北大学ビジネスアイデアコンテストに深く感謝いたします。

審査員特別賞



審査員特別賞受賞の様子



Skimpathyについて

「Skimpathyの名前は、あなたの肌(skin)を大切に、fashionを楽しむことで、共感(empathy)の輪を広げていこう。」という想いに由来



医学部医学科4年 辻田 萌子

東北大学ビジネスアイデアコンテストとは？

東北大学ビジネスアイデアコンテストは、2018年から行われている本学の学生・大学院生が独自のビジネスアイデアを競うプレゼンテーションコンテストです。多方面からの支援を受けながら、社会インパクトを与えるスタートアップの世界への第一歩を踏み出す機会を得られます。

東北大学ビジネスアイデアコンテスト2025

2025年12月13日／東北大学川内キャンパス 文科系総合講義棟 大講義室

学生受賞情報

2025年度 東北大学白菊会 鹿野記念奨学奨励賞・笠原賞授賞式



2026年5月19日、仙台国際センターにおいて、東北大学白菊会第49回総会が開催されました。東北大学白菊会では、2011年に鹿野記念奨学奨励賞、2019年に笠原賞が創設され、解剖実習や臨床実習に真摯に取り組み、将来を嘱望される医学生が毎年表彰されています。これらの賞は、学生たちが日々の勉学に励む大きな支えとなっています。

鹿野記念奨学奨励賞

解剖実習で得た、医師への第一歩



医学部医学科3年
清水 耀

この度は、鹿野記念奨学奨励賞を賜り、大変光栄に思います。解剖実習を通じて、座学だけでは得られない人体構造への深い理解を得ると共に、「御献体は医学生にとって最初の患者である」という言葉を胸に、命を預かる医師としての責任の重さを改めて学びました。AIや個別化医療など医療現場が大きく変わる中でも、解剖実習で得た確かな基礎知識と倫理観を土台に、患者さんに寄り添える医師を目指してまいります。尊いご献体をいただいた方々とそのご遺族の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

笠原賞

学びを未来の医療へ



医学部医学科6年
島田 莉名

この度は笠原賞という名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。東北大学で学ぶ中で、多くの方々の温かい支えに恵まれ、充実した学生生活を送ることができました。臨床実習では、患者さん一人ひとりに異なる背景や価値観があることを学び、医学的な正しさだけでなく、その方にとっての最善の医療を考えることの大切さを実感しています。また、未解明の課題に挑戦し医学の発展に貢献する意義も学びました。今回の受賞を励みに、感謝の気持ちを忘れず、理想の医師像を追求しながら一歩ずつ成長してまいります。

鹿野記念奨学奨励賞

鹿野記念奨学奨励賞を頂戴して



医学部医学科3年
鈴江 紗久乃

この度、鹿野記念奨学奨励賞を頂戴したことを大変光栄に思います。もう1年も経つとは信じられないほど、今でも解剖学の講義、そして実習のことを鮮明に覚えています。複雑で精巧な人体を前にして、悩みながら学ぶ日々でした。人の体は一つとして同じものではなく、必ずしも教科書どおりというわけではないのだと実感しました。臨床の現場でも、教科書だけでは対応できないようなことがきっとあるでしょう。そうした時、解剖実習で学んだように、自分で考え、最善の答えを探し続けられる医師になりたいと思っています。

学術活動

粘り強い探究に臨床の視点も生かし、難病治療の未来を切り開く

研究主題目「新規ミトコンドリアタンパク質翻訳計測法の開発」で、2025年度医学部学生奨学賞最優秀賞を受賞した医学科の宮地優和さん。

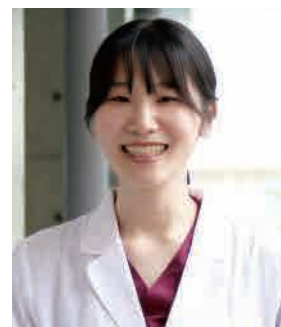
宮地さんは、3年生の9月から12月に行われる基礎医学修練でモドミクス医学分野の研究室に配属されたことをきっかけに研究を始め、現在も研究室に通い続けています。思うような結果が得

られなくても試行錯誤を重ねて研究に取り組み、学会発表などで自身の研究を多くの方々に共有できた瞬間に大きなやりがいを感じたといいます。これまでの経験を糧に「今後、医師になってからも、臨床の視点を活かしながら、難病に対する新しい治療法や治療薬の開発に関わりたいと考えています」と将来への思いを語ります。

研究内容をはじめ、研究を進める上で大変だったこと、大切にしていることなどについて伺いました。詳細は下記QRコードからウェブ記事をご覧ください。



インタビュー



医学部医学科6年
宮地 優和

東北大学医学部 オープンキャンパス2026 実行委員より



医学科オープンキャンパス実行委員長
医学部医学科3年
田口 怜奈

医学科では、150名超の学生と各分野の先生方にご協力いただき、9つの企画を行いました。私が担当したインフォメーションでは、来場者が企画を楽しそうに選ぶ様子が印象的でした。関わってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。



保健学科オープンキャンパス実行委員
医学系研究科障害科学専攻修士1年
藤村 光

本年度も看護・放射線・検査の3専攻が協力し、さまざまな企画を通して参加者の皆様と交流しました。保健学科の魅力を伝えるとともに、私たち自身も多くの学びを得る貴重な機会となりました。ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。



サークル紹介

鉄道愛好会

鉄道から始まる 自由な旅と仲間の輪

部 員 数：10人

活動場所：全世界の鉄道、医学部サークル棟

活 動 日：不定期



私たち鉄道愛好会は、鉄道を始め、旅行・乗り物・海外文化など多彩な趣味を持つ仲間が集うサークルです。コロナ禍以前は、日本各地の鉄道や廃線跡を訪ねる巡検や旅行を行ってきました。活動はコロナ禍で停滞しましたが、2025年に復活。本年の新歓では、4人の新入部員を迎えました。

当会のモットーは「会費無料・兼部可能・自由尊重」。旅行やイベントに加え、ジオラマ制作や発車メロディの演奏など、会員が自由にやりたいことへ挑戦できます。鉄道や旅行に興味のある方は、いつでも大歓迎です。

本年、当会は創立15周年を迎えます。これまでの歩みを大切にしながら、さらなる発展を目指して活動してまいります。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

医学部医学科4年 平 健太郎



サークル紹介

医学部ラグビー部

仲間と共に挑み 成長するラグビー部

部 員 数：31人（東北大学12人、東北医科薬科大学17人、仙台大学2人）

活動場所：川内グラウンド、評定グラウンド

活 動 日：火・木・日曜（毎週火・日曜日は、社会人ラグビーチームS.R.C.の皆様と合同練習）



医学部ラグビー部は現在、東北大学12名、東北医科薬科大学17名、仙台大学2名の計31名で活動しています。練習は火・日曜日に川内グラウンド、木曜日に評定グラウンドで行っています。火・日曜日は社会人ラグビーチームS.R.C.の皆様と合同練習を実施しており、実践的な技術や戦術を学ぶ貴重な機会となっています。

部員の多くは大学からラグビーを始めており、初心者でも安心して競技に取り組める環境が整っています。今シーズンは東医体ベスト4、秋季大会2部リーグ入賞を目標に掲げ、部員一同練習に励んでいます。ラグビーを通じ、心身共に成長することを目指しています。新入部員も随時募集しておりますので、興味のある方はぜひお気軽に見学へお越しください。

医学部医学科3年 川原 諒成

"学食" 星陵食堂より

食から広がる、学生生活のひととき

授業や実習、試験勉強など忙しい日々を送る医学部生にとって、食堂は栄養を補う大切な場所であり、友人との交流の場にもなっています。

医学科3年の橋田美咲さんは、この日、ほっけの塩焼きと小鉢を選びました。「家では副菜を何種類も作るのはなかなか難しいですが、学食なら安い値段でいろいろな選べるのがうれしいです」と話します。普段は肉料理が多くなりがちだからこそ、魚や野菜を取り入れられる学食のメニューは健康を意識するきっかけに

もなっているそうです。「一人暮らしをしてみても、毎日家族のために栄養を考えて料理をしていた母の偉大さを実感しました」と笑顔を見せました。

渋谷陽歌さんも、学食は外食や試験期間などで乱れがちな食生活を支えてくれる心強い存在であり、気分をリフレッシュできる大切な場所だと話します。「友人と食事をしながら試験や実習の話をする時間は、忙しい学生生活の中での楽しみの一つです。学食でお気に入りの芋餅がある日は、嬉しくなります!」



今日のランチ



「かぼちゃ煮、鶏と野菜のトマト煮込み、ひじき煮、味噌汁、ライス(小)」



「ねばとろオクラ、ほっけ塩焼き、冷奴、味噌汁、ライス(小)」

【編集後記】

熊本地震で、災害は忘れた頃にやってくるということを再認識した夏でした。復興をお祈りいたします。今回は、4人の先生方から新たな時代を担う学生へのメッセージを始めとして、この春夏の助成行事を紹介しています。また、本学の魅力を発信するオープンキャンパス報告や、1年次研究室訪問記、さまざまな受賞の紹介・報告など、新たな息吹を感じさせる内容となっております。おなかを満たす学食や、サークル紹介もお楽しみください。引き続きよろしくお願いいたします。



医学部学生後援会会報 ナナセター 編集委員長
東北メディカル・メガバンク機構ゲノム解析部門教授 布施 昇男

東北大学医学部学生後援会会報
ナナセター

Nanase Letter

第37号 2026年9月発行

本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

発行 東北大学医学部学生後援会

編集 東北大学医学部学生後援会会報 ナナセター編集委員

デザイン デザインマツカ

印刷 高橋写真製版

東北大学医学部学生後援会事務局

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1

TEL: 022-717-7870

med-koen@grp.tohoku.ac.jp

©東北大学医学部学生後援会

東北大学医学部学生後援会
ウェブサイト

<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>

東北大学大学院医学系研究科・医学部
ウェブサイト

<https://www.med.tohoku.ac.jp/>

X
東北大学大学院医学系研究科
@tohoku_univ_med

Facebook
東北大学大学院医学系研究科・医学部
@Tohoku.University.School.of.Medicine

東北大学医療系メディア「ライフ」
ウェブサイト
<https://www.life.med.tohoku.ac.jp/>

